

はじめに

静岡県では、沼津高架PIプロジェクト・PI実施計画に基づき沼津駅付近鉄道高架事業について、市民や関係者の皆さんとのコミュニケーションを図りながら、計画の検討を進めています。

評価項目については、まず Step3においてテーマ①～③の代替素案ごとに設定し、Step4にて代替素案を組み合わせ（パッケージ）した代替案について設定することとしていました。

計画の検討は、Stepで区切って議論を後戻りさせることなく効率的に進めることとしていますが、Step4の代替素案の組み合わせの検討を進めるに当たって、Step3では検討されなかった代替素案が新たに見出されることも想定されたため、必要に応じてStep3に立ち返り、検討を進めることとしました。

そして今回、検討の場でも出された多様な意見を整理し、ここに「Step3及びStep4 評価項目」として検討結果をとりまとめました。（「Step3 代替素案（論点ごと）」及び「Step4 代替案（パッケージ）」はそれぞれ別冊にまとめました。）

皆様の積極的な関わりによって、沼津高架PIプロジェクトの基本理念である互恵的解決に向けて前進したことに感謝申し上げます。

もくじ

I. Step3及びStep4におけるPIプロジェクトの取組み.....	1
II. 「評価項目」の位置づけ.....	2
III. 広域的な観点からの評価項目（テーマ①）.....	3
IV. 沼津駅周辺地区の評価項目（テーマ②）.....	4
V. 原地区の評価項目（テーマ③）.....	6

I. Step3及びStep4におけるPIプロジェクトの取組み

Step3及びStep4では、これまで（平成25年4月12日（ステップ3開始）～平成25年●月●日）下記のような多重多層のコミュニケーションを実施しました。

【Step3及びStep4におけるこれまでのPIプロジェクトの取組み】

コミュニケーションの方法	取組みの概要
ホームページ	沼津高架PIプロジェクトの検討・取組み状況をお知らせしました。随時更新しています。
広報紙	<p>① 沼津高架PIプロジェクトニュースレター第6号を発行（H25.5.12）しました。</p> <p>[主な掲載内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Step2（目標の設定） 地域づくりの目標」のお知らせ ・Step3 代替素案と評価項目の意見募集 <p>② 沼津高架PIプロジェクトニュースレター第7号を発行（H25.7.12）しました。</p> <p>[主な掲載内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Step3 地域づくりの戦略案（代替素案）の中間報告 ・Step3 代替素案と評価項目の意見募集
オープンハウス	市民の皆さんの集まる場所で、計画に関する情報や進捗状況などをパネル展示し、ご意見を伺いました。（計●日間実施）
車座談議	PI運営事務局が各種団体などへ伺い、沼津高架PIプロジェクトや計画などについて情報提供し、意見交換を行いました。 意見交換（●団体に実施）
勉強会	主に鉄道高架化事業に関心のある団体等から推薦された参加者からなる勉強会を設置し、これまでの計画やまちづくりの考え方を共有しながら議論を行いました。（沼津駅周辺2回、原地区3回、合同4回） ① 沼津駅周辺地区勉強会：H25/4/13、5/11 ② 原地区勉強会：4/20、5/14、7/23 ③ 合同勉強会：5/25、6/13、7/13、8/10 参加者にアンケートを行いました。回収枚数●枚
メール、FAX、郵送等での意見募集	常時、ご意見を募集しています。意見提出者●名
傍聴者アンケート	PI委員会や勉強会の傍聴者に、アンケートを行いました。回収枚数●枚

Ⅱ. 「評価項目」の位置づけ

「評価項目」は、Step3,Step4 において市民や関係者の皆さんから頂いたご意見を踏まえて作成した Step3,Step4 の成果です。

評価項目は、Step5（代替案の比較評価）において、複数の代替案を比較評価し、「地域づくりの目標」をどれだけ達成できるかを確かめる物差しとなるものです。また、代替素案（論点ごと）を立案する際の判断材料としても活用されました。

評価項目とともに設定した評価指標については、評価項目にそって具体的に調べるため、評価項目を代理的に表したものです。定量的な評価指標については、将来の状況についても容易にデータが取得できるものを選びます。

Step5 では、この評価項目に基づいて、代替案の比較評価を行います。

Ⅲ. 広域的な観点からの評価項目（テーマ①）

地域づくりの目標		評価項目（評価指標）	No.
広域的な拠点に	県東部地域の都市が連携しながら広域的な拠点として持続的に発展する	拠点地域として人口が集積し、多様な都市的サービスが提供されるか （広域的な拠点としての人口集積、集客性の向上） （主たる公共公益施設の集積状況）	R1
	交通やモノ・ヒトの交流拠点を形成する	アクセス圏域が広がるか （一定時間内のカバー人口の変化）	R2
交流拠点として賑わう	災害時の代替機能や復旧・復興の拠点を形成する	復旧・復興の際に、人流や物流が確保されるか （県内、首都圏、中部圏へのアクセスルートの代替性）	R3
	早く結論を出し地域整備を進める	判断までの期間や判断の遅れに伴う影響 （民間投資マインドの変化）	R4
何もせずに過ごすのは問題	すぐに効果が現れる対策と同時に長期的視点から抜本的な対策を行う	早く効果が現れるか、かつ、長期的な地域づくりへの効果があるか （時期別の累積効果）	R5
	総合的な戦略を持って地域づくりを進める	手続的なリスクがなく、実現可能性があるか （施策実施にともなう課題、事業の中止や変更のための追加的費用や手続きに要する時間）	R6
	市民と民間と行政が協力し合って地域づくりを進める	県や市の都市計画等との整合がとれ、市民や民間との協働が図られるか	R7
税金は効果的に使って	沼津市財政に無理がないように	事業費が将来に渡って市財政の負担とならないか （全体の事業費）（ランニングコストも含めた事業費） （市財政の幅と事業の負荷率）	R8
	費用負担に見合った公共投資なのかを十分に検証する	社会的な効果をどう評価できるか （費用便益比の確認プロセス）	R9

IV. 沼津駅周辺地区の評価項目（テーマ②）

地域づくりのポイント①：賑わい・活力・持続性

地域づくりの目標	評価項目（評価指標）	No.
多世代が 住まう	多くの世代や多様な属性の人々が住まう 駅周辺の居住者人口の多さと集中度 （駅 1km 圏内の新たな住宅床面積）	E1-1
	生活に必要な施設が近くに集まり、歩いても便利に暮らせる 徒歩圏の居住人口の集中度 （駅 500m 圏内の新たな住宅床面積）	E1-2
	日常の中に緑や水辺などの快適な公共空間があるなどで、多世代から居住地として選ばれる 徒歩圏における生活者のための公園や広場等の公共空間の多さ （駅 500m 圏内の公園や歩行空間の面積）	E1-3
従業者が 通う	日々多くの従業者が通い、多くの人が行き来する 徒歩圏に通勤する従業者の多さ （定期券利用の乗降者数）	E1-4
来訪者が 集う	商業活動の活力が郊外店にはない魅力を提供し、さらに多くの来訪者を集める 徒歩圏における商業施設等が利用可能な施設の規模 （駅 500m 圏内の商業等床面積）	E1-5
	食や景観などの観光資源が広域からも多くの来訪者を引きつける 魅力的な都市景観の形成への貢献度	E1-6
	福祉や医療などの新たなサービスの集積が広域からも多くの来訪者を引きつける 駅周辺地区での公共公益サービス（病院等）や観光資源の多様性 （駅 1 km 圏内の新たな公共公益施設用地の数・面積） （定期券外の乗降者数） （鉄道用地の宅地・公共用地への転用面積）	E1-7

地域づくりのポイント②：産業立地と雇用機会

地域づくりの目標	評価項目（評価指標）	No.
産業	居住者の生活を支える多様な産業が集積 徒歩圏でのオフィス等の多さ （駅 500m 圏内のオフィス等床面積）	E 2-1
雇用	徒歩圏での雇用者の多さ （駅 500m 圏内の従業者数）	E2-2

地域づくりのポイント③：交流を支える移動性とアクセス

地域づくりの目標	評価項目（評価指標）	No.
歩行者のための空間 歩行者・自転車、子どもや高齢者、障害者が快適に移動できる 特に、鉄道を挟んで南北地区を円滑に移動できる	歩行者や自転車等の南北移動の円滑さ （鉄道横断における歩行空間の大きさ_歩道幅員） （駅南北における移動の高低差） （踏切の箇所数）	E3-1
公共交通 周辺都市から多くの人々が集まるために、公共交通が充実している	公共交通の中心性 （駅前バスターミナル容量）	E3-2
広域アクセス 広域からの自動車でのアクセスを担う幹線ネットワークが充実している	高速道路からのアクセス性 （東名、新東名ICからのアクセス時間）	E3-3
	周辺地域からのアクセス性 （駅1km圏内における駐車場用地の面積）	E3-4
交通の循環 平常時、緊急時ともに駅周辺での道路交通が円滑である	南北の移動の円滑さ （南北断面の交通容量に対する駅500m圏内の発生交通量）	E3-5
	東西の移動の円滑さ （立体道路に伴う東西方向の分断延長）	E3-6

地域づくりのポイント④：安全で安心な地域

地域づくりの目標	評価項目（評価指標）	No.
避難場所 地震や津波災害への備えがなされ、居住や企業立地における不安感が解消される	災害時の避難場所の確保、堅牢建物への建て替え動向 （駅500m圏内の堅牢建物の率）	E4-1
避難路 災害時に信頼できる避難経路が確保される	南北断面の交通容量 （一定時間内での鉄道北側への移動可能交通量自動車・歩行者）	E4-2

V. 原地区の評価項目（テーマ③）

地域づくりのポイント①：誇りである文化と景観の活用

地域づくりの目標	評価項目（評価指標）	No.	
戦略的な グランド デザイン に基づく コンパクトな地域 づくり	原地区の魅力を守り、伸ばし、活かすため、秩序と戦略のある地域づくりを積極的に進めていく	秩序と戦略のあるグランドデザインとなっているか (実現性)	H1-1
		グランドデザインが地元との間で共有されたものとなるか	H1-2
	人々が住まい働き集まる場と、自然や景観や農のための場を明確に区別したコンパクトな地域づくりを進める	居住の区域、産業の区域、残すべき農地・自然・景観・農の区域が区別されるか (乱開発されることにはならないか、市街地が分散し農地と混在することにはならないか) (既存の住環境に騒音等の影響がないか)	H1-3
		コンパクトな範囲に人口が集約し、歩いて暮らせる市街地構造となるか (駅を中心とした暮らしのパターンが実現されるか)	H1-4

地域づくりのポイント②：農や自然と共存した産業・暮らし・賑わい

地域づくりの目標	評価項目（評価指標）	No.	
賑わい	原の魅力ある歴史資源や地域資源などの観光資源を活かせるか	H2-1	
		若い人も含め定住者が増えるか (地区の夜間人口)	H2-2
	地域資源を活かし、定住と雇用と来街者を生み出す	新たな産業の雇用が増えるか (地区の従業人口)	H2-3
		観光客が増えるか (入り込み客数)	H2-4
		新たな農業に関わる来訪者が増えるか (入り込み客数)	H2-5
新たな産業	健康、福祉、医療などの新たな産業を誘致して、原地区で直接雇用を生み出す	健康福祉医療などの新たな産業が進出したくなる魅力があるか	H2-6
農業と 共存した 産業	観光や教育分野と融合した新たな農業を視野に入れ、雇用、交流、生産をもたらす	新たな農業に関わる産業が進出したくなる魅力があるか	H2-7

地域づくりのポイント③：新たな地域づくりを支える基盤づくり

地域づくりの目標		評価項目（評価指標）	No.
水害対策	水害が早急かつ抜本的に解決される	水害の心配が解消されるか	H3-1
基盤整備と連動した地域づくり	大量の通過交通やアクセス交通を担う道路基盤が整備される	大量の通過およびアクセス交通の影響を緩和できるか	H3-2
		地区内の自動車交通を円滑に処理でき、歩行者空間が確保されるなど、居住者の安全や居住環境を守れるか (増加する交通量と南北方向・東西方向の交通容量の確保) (歩行空間の大きさ)	H3-3
	基盤整備と連動した地域づくりがなされる	基盤整備を活かした地域づくりができるか	H3-4
避難場所	津波などの大規模災害時を想定した避難場所が確保される	地震、津波、川の氾濫、液状化などの災害時の避難場所が確保されるか	H3-5
避難路	津波などの大規模災害時を想定した信頼できる避難経路が確保される	避難路が確保できるか (津波発生時における一定時間内での山側や避難場所への移動可能な範囲(自動車・歩行者)) (地震・火災等の災害発生時(家屋等の倒壊)における安全な避難路容量)	H3-6